

# 車体 NEWS

JAPAN AUTO-BODY INDUSTRIES ASSOCIATION INC.

  
2012  
新春増刊号

## 年 頭 挨 拶



一般社団法人 日本自動車車体工業会  
会 長 水嶋 敏夫

あけましておめでとうございます。

2012年の新春にあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年の車体業界を振り返ってみますと、たいへん変化の激しい1年間でありました。3月の大震災によるサプライチェーン寸断の中、お客様への納入日程対応にたいへんな苦勞を重ねましたが、夏以降にやっと正常状態に戻ることができました。その後も中型車ポスト新長期規制適用に伴う需要変化、タイの水害影響、円高への対応等、経営環境のめまぐるしい変化が続き、会員の皆様のご苦勞はたいへん多かったことと推察いたします。

昨年1月～11月の当会会員生産台数を見ますと、委託生産車のサプライチェーン寸断による減産のため前年比16%減の178万台となりましたが、委託生産車を除く当会特有の非量産車種をみますと、10.1万台と1%増となりました。

なお、直近の3か月を見ますと、会員全体では対前年比11%増、当会特有の非量産車種では26%増と大幅な前年超えが続いており、生産台数から見れば、復旧したと判断できる状況となりました。

このような中、当会は4月から一般社団法人に移行し、「会員支援活動の充実」「安全対応活動の推進」「環境対応活動の推進」を重点項目として活動してまいりました。一点目の「会員への支援活動の充実」に関しては、前半は震災影響の調査、フォロー、支援活動を最優先に実施してきました。政府や関係官公庁から各種調査依頼をはじめ復旧支援策やさまざまな特例が膨大に展開になりましたが、会員の皆様に「必要な項目は洩れなく分り易く」を念頭に展開させていただきました。また、これに関連した規制緩和や特例

設定の要請活動も実施し、特に要望の強かった「中型車ポスト新長期規制の適用延期」はお客様とのトラブル回避に有効であったと考えております。

二点目の「安全対応活動の推進」では、後部突入防止装置の法規改正への対応、トレーラ安全性向上策の共同開発、長期使用車の保守点検方法の見直しなどに取組み、概ね計画通りに進めることができました。

最後の「環境対応活動の推進」では、CO<sub>2</sub>、VOC、産業廃棄物の削減とも、皆様のおかげをもちまして、今年度目標もほぼ達成できる見込みとなりました。また、新たに4月に設定した「新環境基準適合ラベル」、通称「ゴールドラベル」も、会員への取得支援活動、社会へのPR活動とも積極的に開始し、既に10社51機種で適合認定と順調に運用開始することができました。

以上のように、皆様のご協力により事業計画は概ね順調に進捗させることが出来たと判断しております。

さて、本年の経営環境を見てみますと、欧州の信用不安、超円高の長期化、新興国の成長鈍化、北朝鮮の指導体制移行などリスク要因を多くはらんでおりまだまだ厳しい状況が続くと思われれます。一方で第3次、第4次補正予算による各種復興支援策の実施やエコカー減税の延長、補助金の復活もあり、国内需要の喚起も期待できると考えています。このような中、日本のものづくりの維持も念頭におき、引き続き「会員に喜ばれる、頼りにされる車体工業会活動」を充実させていく所存ですので、引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、会員並びに関係各位のますますのご繁栄とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。